

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」(15)

平成 25 年 12 月 30 日

村山 章

実際にあったことだそうです。一人目に女の子を出産した母親は、この長女を一生懸命に育てました。数年して次女が生まれると、母親は直に外へ働きに出ました。次女は祖母に面倒を見られ、おばあちゃん子として育ちました。そして祖母が他界すると次女は、自分と長女に対する母親の接し方の差に気づき、母親を憎むようになりました。そして、その憎しみからキッチンドリンカーとなり病気になったそうです。人を憎むことは自分自身を傷つけることにつながります。嫌いな人のために、なぜ自分自身が傷つかなくてはいけないのでしょうか。

この話ですが、母親は長女と次女を差別した感覚はなかったと思います。たまたま長女は母親が主に面倒を見て、次女は祖母が主に面倒を見た、それだけのことなのにこんな関係になってしまうのですね。感情の世界は本当に難しいですね。子は親に対してこうあってほしいと思い、親は子に対してこうあってほしいと願う。実の親子は、甘えの気持ちが強いからなおさら他人同士より難しいのかもしれませんが。親も一人の人間として自分の人生を生きている訳で、決して偉くも、強くも、正しくもない存在なんですね。

他人同士なら、むしろもう少し許し合えるのではないのでしょうか。あるいは、性の合わない人とは距離を置き、合う人とは距離をなくしていけばよいのです。感情の機微は繊細で本当に難しいものです。知らず知らず人様を傷つけていることが多々あります。感情の機微は人によってまちまちですし、人の感情は常に変化しています。それでも難しい反面、人は感情の世界を楽しんでいるのかもしれませんが。そして、自らの、そして互いの感情をコントロールしながら向き合うことが生きるための大切な要素かもしれません。

「自我」とは、自分が考える自分自身ということらしいのですが、そのコントロールがなかなか一筋縄ではいきません。結局、「真の自由とは自我からの解放」となるのでしょうか。